

第2回 チャチャチャ 1

1. 前回、学習したワルツを異なる人と、いろいろな曲で練習する。
2. 第1回のワルツの最重要点が、2の足に3で揃えたらば違う足を動かす事であったが、チャチャチャでは、4.&1.のリズムに乗って足を早く動かす事にある。その為には、バランスが常にボール（足の親指の付け根の膨らんだ部分）になくは素早い動きが出来ない。軽く踵が浮いている気持が、良い姿勢と共に重要である。最初にシャッセを 3/4.1/4.1 拍で覚えてしまうと後で 1/2.1/2.1 拍に直すのに苦労することが多い。
3. チャチャチャの音楽、出来れば「リズム・オンリー」を掛けて特徴を説明し、チャチャチャのシャッセが同じ早さになること、開く、揃える、開く、でも、開いた足の方に寄せる（必ずしも揃えなくても良い）、開く、などの説明をはしておくが良い。
4. 指導者は教本のベーシック・ムーブメントは、カウント2で左足前進であることは承知しているであろうが、英国の小学校やレアードの初心者向けの本にも「男子左足横へ（1）」とあるように、全種目とも音楽の「小節の頭から（1）」「男子左足から、女子右足からスタート」に統一するのが良いと思う。（但し、キューバン・ルンバとパソドブレは別であるが）
5. ハンド・ツー・ハンドは「後退」、ニューヨークは「前進」と掛声を掛けても良いと思うが、後ろに乗りすぎて戻れない人や、反対に足だけ出して体重を掛け替えない人の様な、悪い癖が付く前に直しておくべきである。ニューヨークの前進も同様である。
6. ルーティンは全て4小節ずつになっているので、指導者は最初「4回」と大きな声で教えてあげると次のフィガーに繋げることが容易に出来る。それでも未だ危ない時は、「次は後ろですよ」とか「最初に戻ります」などと直前に掛声を掛けてあげると、易しく覚えられる。出来るようになったらば指導者が黙っていても4小節ずつで踊れるようになってくる筈である。
7. 入門編では、グループ・レッスンの特徴を生かし、全員が同じルーティン・と回数で踊ることにより、間違えた人が自身で間違えた事に気が付く。後半になったらば全員が同じでなく、リード・フォローを教えることにより自由に踊れる様になるが最初の時点では決められたフィガー（ステップ）を踊る。